

全日本語りネットワーク

2007. 10. 1 発行

〒376-0045 群馬県桐生市末広町 5-19
桐生市市民活動推進センター 内
(Fax) 0277-47-4067 (振替)00130-2-114808
(E-mail) welcome@japankatarinet.jp
(HP) http://japankatarinet.jp/

ニュース

人生の機微を知ったからこそ良い語り手になりたい

東京都品川区 山本 典子

私が夏休みを奈良の山奥の村で過ごすようになって、もう20年近くにもなりますが、その村にも、保育所があり、高齢者のための入所・通所施設「いこいの家」があることを知ったのは、10年ほど前でした。ちょうどその頃から、余生はこの村で夫婦2人で静かに暮らそうかと、思い始めていました。そんな気持ちで改めて村を見回すと、村の保育所や学校などがとても身近に思われ、「いこいの家」も覗いてみたくなりました。

そして9年前に、東京から来た友人たちと、「いこいの家」で初めてのお話会を行いました。以後年に一度のお話会を、8月のお盆前にしています。プログラムは、手遊び、紙芝居、パネルシアター、そして語りを織り交ぜ1時間ほどです。聞き手にも語り手にも楽しいプログラムであること、また、人生の先達たちが対象ですので、わかりやすいことと同時に大人の心に届くような内容をと願ってプログラムを作成しています。

一年に一度の会なのに、みなさんが楽しみに待っていてくださって、私たちの語りにウン、ウンと頷いたり、怖い話にびくっとしたり、ちょっとした笑い話に大笑いしてくれます。もちろんいろいろな方がいて、全員がこのような反応を示してくれるわけではないのですが、心地よさそうに座っていてくださるだけでも、嬉しい気持ちになります。帰る時にはどの人も、また来てね!と、握手をしたり頭を下げてください、これもまた嬉しい限りです。

今年も「また伺ってもよろしいですか?」と連絡を入れたところ、「いつでも来てください。みんな本当に楽しみにしてるんです。良かったら2回でも3回でもお願いします」と、職員の方が言ってくださいました。山奥の静かな村では、外からの刺激は少なく、訪れる人もあまりありません。東京から行く私たちにとっては、それこそが最大の魅力なのですが、毎日そこで暮らしている高齢者の方々にとっては、外からの刺激もまた変化があって良いものかも知れません。語り手と聞き手が、持ちつ持たれつのいい感じで付き合っていけるお話会を、ゆったりとしたペースで、これからも続けていきたいと思えます。

私も、もうすっかり「お話のお姉さん」が通らない年になりました。人生の機微を知った年齢の者としては良いお話を聞きたいし、人生の機微を知っているからこそ良い語り手になりたいものです。「いこいの家」での体験が、それを強く思わせてくれています。